

日銀金融政策決定会合（2024年12月）

市場予想通り政策金利の据え置きを決定

2024年12月20日

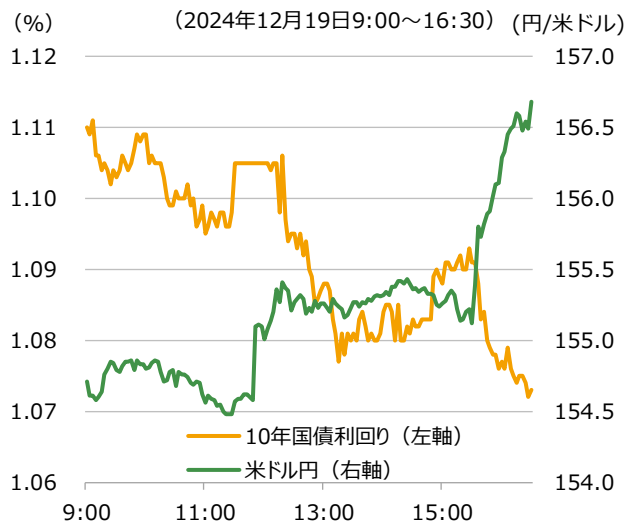
植田総裁は追加利上げ判断に「もう1ノッチ」必要との見解

12月18～19日に日本銀行（以下、日銀）は金融政策決定会合を開催し、政策金利を据え置く（無担保コールレートオーバーナイト物を0.25%程度で推移するよう促す）ことを決定しました。市場における本会合での利上げ織り込みは一時65%程度まで高まっていたましたが、本会合直前は20%近くへ低下していたため、今回の決定はほぼ市場予想通りと言えます。しかし、直前に開催された米FOMC（米国連邦公開市場委員会）で利下げペースの大幅鈍化が示されたことで円安が進行し、一部には円安対策としてのサブライズ利上げとの見方もあったため、結果公表直後に1米ドル=155円を超えて円安が進行しました。

記者会見で植田総裁は、利上げを見送った理由について今後の賃金動向や米次期政権の経済政策を巡る不確実性を挙げ、そうした事柄を見極めるための追加の情報が必要との見解を示しました。また、輸入物価の前年比上昇率が落ち着いていることやインフレ期待の上昇が緩やかであることも、追加利上げを急がない理由として言及するなど、ハト派的な発言が目立ったことから一段と円安が進行しました。

先行きの金融政策運営について、経済・物価情勢が「オントラック（想定通り）」で推移しており日銀の見通しが実現する確度は高まっているとしながらも、追加利上げに向けては「もう1ノッチ（段階）欲しい」と述べました。具体的には賃金上昇の持続性という観点で2025年春闘のモメンタム（勢い）を挙げており、次回の追加利上げはその結果を確認してからとなりそうです。

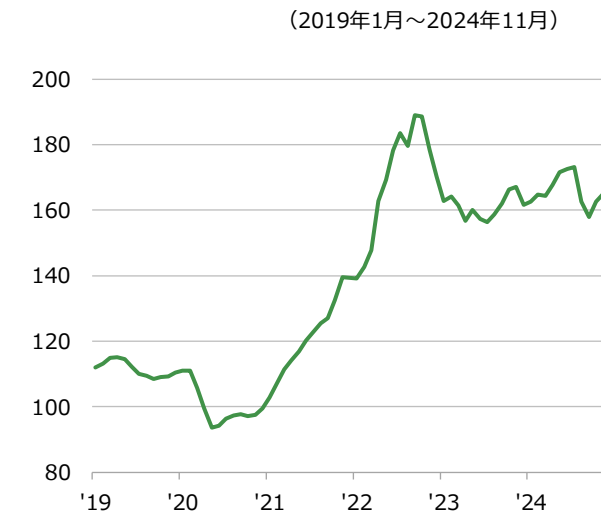
12月19日の10年国債利回りと米ドル円の動き



※3分足、値のない時刻は直前値を使用

(出所) ブルームバーグより大和アセット作成

輸入物価指数（円ベース）



※2020年平均 = 100

(出所) 日本銀行

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。